

令和4年5月10日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学校名	管理機関名	設置者の別
宇都宮市立城山西小学校	宇都宮市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の概要

本校は、小規模特認校として地域の実情を踏まえ、「人間尊重」の教育を基盤とし知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で、豊かな心と確かな学力を身に付けた、たくましく生きる児童を育成することとしている。

- 情操豊かで、思いやりのある子供（やさしく）
- 自ら学び、よく考える子供（かしこく）
- 健康で、やりぬく子供（たくましく）

平成17年度より小規模特認校に指定され、特色ある教育活動を推進してきた結果、児童数の増加につながり、児童教職員ともに伝統ある学校としての誇りをもち、学校生活を送っている。それは、「小さな学校だからこそできること」をコンセプトに本校の特色ある教育活動を推進してきたからである。教職員の積極的な学校経営への参画のもと、「誰もが安心して学べ、活力あふれる学校」の実現を図るため、「一人一人を大切に授業」を中心にして、5つの公約「会話科の継続・充実」「文化人の先生方との授業実践」「地域との確かな連携」「食農体験を通じた食育の推進」「放課後活動（こがし桜スクール）の運営」を継続しつつ、「会話科」「食育」「体幹を鍛える運動体力の向上」の3点を柱として全教職員で指導に努めていきたい。

さらに近年は、3点の柱の一つの「会話科」について、さらに充実した活動や生きた学びにつながることを考え、各教育活動とのつながりにポイントを置き、教育課程を編成している。

本校の「会話科」は、子供たちが様々な人々と協力し共に生きるために必要なコミュニケーションを図ろうとする態度や、日本語によって考えたことや伝えたいことを目的や状況に応じて内容や趣旨を筋道立てて話したり、効果的な表現を工夫して伝えたりする能力を育成することを目標としている。さらに、日課を工夫し「英会話タイム」を位置付け、全学年で毎日「英会話」に触れることができるようにすることで、そこで経験する表現やコミュニケーションを生活の一部として取り入れられるように考えている。

その上で身に付けた力を、他教科・領域等で使ったり、他教科等と関連させて学ばせたりしていくことは、本校が目指す目標を達成するために有効であると考え、その点も考慮しながら編成をしている。

## 2. 特別の教育課程に基づく教育の実施状況に係る評価

項目	評価項目	主な具体的な取組	評価
	<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「児童は、外国語活動の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業を中心に、英語を使ってコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるよう、指導を充実させる。</p> <p>② 英会話タイムの充実を目指し、年に数回校内研修を行い、教職員の指導力の向上に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 90.5% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年の教科書の内容も加味しながら、本校ならではの英語に特化した年間指導計画を検討・作成していく。</li> <li>・英会話タイム・授業の充実を目指し、来年度も定期的に校内研修を実施する。</li> <li>・生活の場で英語にふれられる機会を増やすため、AETによる校内放送の充実を図る。</li> </ul>
目指す児童の姿	<p>日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 英語や日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科・外国語活動の年間指導計画に基づき、計画的、系統的に指導を行っていく。</p> <p>② 英会話タイムを TT 体制で内容を充実させながら継続していくとともに、外国語の授業では、やり取りを重視した、楽しい授業作りを行う。</p> <p>③ 外国語活動や外国語については、中学校へのつながりを意識した研究を進めていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 91.6% 教職員の肯定的回答 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話タイムを毎日のように行ったり、外国語の校内研究を行ったりしたことで、児童の英語によるコミュニケーション能力を高めることができた。</li> <li>・コロナ禍においても、ラジオ番組作りや落語、演劇等の会話科の授業を工夫して実施し、日本語によるコミュニケーション力を高めることができた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会話科、外国語活動、外国語科の年間指導計画を再検討していく。</li> <li>・今後も AET との連携や TT 体制を活用しながら英会話タイムの充実を図っていく。</li> </ul>

### <学校関係者による評価>

- ・コロナ禍の中、行事縮小や見直しなど工夫した取り組みが見られた。その成果がアンケート結果にも表れている。次年度へ向けては今年度の成果を生かして教育活動を進めてもらいたい。
- ・コロナ禍の中での教育活動に感謝している。次年度へ向け目標をもって、さらに改善を加えていってほしい。
- ・公立の小学校において、唯一無二の存在であり続けてほしい。
- ・教職員の肯定的回答 100%に対して、児童保護者の肯定的回答が低い項目が多く、意識のズレを感じた。学校は、次年度の方針のとおりに取り組んでいただき、保護者が学校教育を理解し、協力していくことが必要だと感じた。教職員の方々の愛情をもった指導にいつも感謝している。

- ・新型コロナウイルス感染対策に関わる学校運営については、ご苦労されていると感じ心配をしている。子供たちの安全第一を考え、安全・安心な学校を構築していくことは並大抵のことではない。学校内においては、ソーシャルディスタンスを取ることで子供たちとの触れ合いが少なくなる反面、家庭においては保護者との時間が増えるのはよいことである。

### 3. 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

保護者・地域住民、また学校教育関係者へ「特別の教育課程に関する取組」の理解を求めため周知してきた。今までの広報活動によって、本校の特色ある教育活動を理解していただけるようになってきている。学校だよりやホームページを通じた啓発活動も併せて行うことで、本校の取組についての理解がさらに深まってきたといえる。

土曜授業の一日公開日には、文化人の先生方による「特色ある教育活動」を保護者だけでなく地域の方にも見ていただくことで、本校の特色ある教育活動への理解が深まっている。保護者や地域をはじめ多くの方に教育活動を公開する機会を設定することで、学校の取組を紹介している。

### 4. 実施の効果及び課題

市の学習内容定着度調査の結果から、外国語への興味が高く、外国語を学ぶことが好きという児童も多い。これらの結果は、概ね市の平均を上回っていることから、低学年からの英会話に親しむ活動が効果的であると言える。

また、話合いへの積極的な取組が多くの児童に見られ、市の平均を上回っている。理由や根拠をあげながら話せると回答した児童も多く、少人数での活発な意見交換を行う指導の成果が表れてきている。様々な場面で進んでコミュニケーションを図り、考えたことや伝えたいことを、話したり伝えたりできると実感していることが分かる。

また、外国語・外国語活動・英会話タイムの年間指導計画を見直すことで、さらに児童にとっての学習意欲へとつながるような取組にも着手している。

### 5. 課題の改善のための取組の方向性

課題改善のため、外国語科・外国語活動の目標、内容や他教科との関連などを検討し、年間指導計画を再編成した。教職員による英語研修を実施し、個々の指導力向上に努めている。